

# 石川県七尾美術館だより

平成17年10月1日発行  
編集・発行 石川県七尾美術館

## 第43号(秋号)



ISHIKAWA  
NANAO  
ART MUSEUM

2005 国際10周年・新七尾市誕生記念  
Bologna Fiera del Libro per Ragazzi  
**イタリア・ボローニャ  
国際絵本原画展**

「ANNUAL表紙」  
マックス・ベルジュイス（オランダ）  
©Foundation Max Velthuis, The Hague, Netherlands

# 展覧会紹介

平成17年9月30日(金)～

12月25日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

開館10周年記念・新七尾市誕生記念

## 「2005 イタリア・ボローニャ

### 国際絵本原画展」

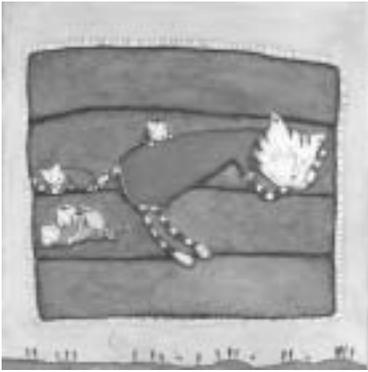
9月30日(金)～10月30日(日)

〔会期中無休〕

#### ◆第一・第二・第三展示室

イタリアのエミリア・ロマーニャ州の州都ボローニャ市では、毎年四月に世界で唯一の児童図書専門国際見本市、「ボローニャ児童図書展」が開催されます。世界各国の出版社がブースを構え版權の売買などが行われるため、児童図書の最新動向を知ることのできる貴重な見本市となっています。

「ボローニャ国際絵本原画展」は、一九六四年に始まった見本市でのイベントの一つとして、一九六七年から開催されています。このコンクールは絵本のために描かれた五枚一組の絵本原画を審査するもので、物語のためのイラストを描くフィクション部門と、図鑑などの情報伝達や教育を目的とするノンフィクション部門で募集されま



「夜ネコちゃん」  
クリスティーナ・アンドレス (ドイツ)



「魚話」今井彩乃 (日本)

す。無名の新人から既にイラストレーターとして活躍している作家まで十六歳以上であれば誰でも応募でき、公平に審査されることから、新人イラストレーターの登竜門として注目されています。一九七八年に、日本で初めてイタリアでの入選作品を紹介する「イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」が兵庫県の西宮市大谷記念美術館で開催されました。当館では一九九八年以降毎年開催し、今年で八回目となります。二〇〇五年は世界六十カ国、二五七〇人の応募がありました。これらの作品は、毎年メンバーの代わる五人の国際審査団により審査されます。今年の審査員はフランスのアートディレクターであるジェラルド・ロ・モナコ、「ぞうのエルマー」で人気のイギリスの絵本作家デヴィッド・マッキー、香港の編集者マイケル・ノイゲバウワー、韓国の編集者シン・キョンスク、日本の板橋区立美術館学芸員松岡希代子です。彼らによる厳正な審査の結果、フィクション・ノンフィクション部門を合わせて、十六カ国、八十五人の作品が選ばれ、日本では八十四人の作品四一点が展示されます。

十六人もの作品が選ばれました。ボローニャ展への入選者数はイタリア・フランス・ドイツと肩を並べるまでになり、海外の出版社からのデビューにも繋がっています。クラシックな技法から立体物や写真、CGなどで表現された、オリジナリティーに溢れバラエティに富む絵本原画の世界をお楽しみください。

【特別展示】  
今年の特別展示は二〇〇四年秋、国際アンデルセン賞画家賞を受賞したオランダのマックス・ベルジュイスです。彼は一九七二年のブラティスラヴァ世界絵本原画展(チエコスロヴァキア)での金牌を始めとして、国内外で数多くの賞を受賞しました。代表作「かえるくん」のシリーズは各国で翻訳されています。親しまれています。惜しくも本年一月にお亡くなりになりましたが、今回は、絵本原画二十四点を展示します。



「雲のパン」ベク・ヒナ (韓国)



「ユダヤの父親と三人の娘たち」  
ジャンニ・デ・コンノ (イタリア)



「こびとくんのしあわせないちにち」  
マックス・ベルジュイス (オランダ)

©Foundation Max Velthuis, The Hague, Netherlands

【開館10周年記念企画】

これまでの入選者には、現在活躍しているイラストレーターや絵本作家が数多く含まれています。当館の開館10周年を記念して、過去に入選された約100名の作家によるメッセージ「ポロニーヤへの絵手紙」と、絵本を展示します。

【追加情報】

館内では常時、ポロニーヤから届いた審査の様子や入選作家の声を収録したビデオを上映します。随所に展示した100冊以上の絵本も併せて、自由にご覧ください。

また、巻頭特集にマックス・ベルジュイスを取り上げた展覧会図録や、展示作品のポストカード十六種に加え、一筆箋、クリアファイル、入選作家の絵本などを販売予定です。



「マルハナバチの生活」  
キャロル・マリン（イギリス）



「こるんごのながーいはな」むらかみひとみ（日本）

◇観覧料

大高生	一般	個人	団体
3500円	700円	600円	3000円

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

ポロニーヤ展特別企画

●子どもワークショップ●【参加費無料】

「かんたん絵本を作ろうよ！」  
いらなくなったポスターやカレンダーなどの裏面を利用して作る8ページの冊子に、ストーリーを考え、自由にページを飾りつけてオリジナル絵本を作ります。

日時 ポロニーヤ展会期中毎週土・日曜日  
午後2時～4時

対象 4歳～小学生（未就学児は保護者同伴）

定員 各日10名（要申込）

持ち物 不要のポスターやカレンダーなど

募集 電話にて受付

協力 もこもこ文庫・もこもこの会

子ども映画上映会 ●アートホール 【入場無料】

大人も子どもも楽しめる、世界の短編アニメ映画を上映します。

日時 10月8・22日 午後1時～

「ぼんじ休す」（6分／ブルガリア）

「ふしぎなバイオリンとクモ」（6分／チェコスロバキア）

「小さなゆうびんひこうきベドロ」（8分／アメリカ）



「どろんご足の子どものためのシャボンのうた」  
マヤ・セリア（クロアチア）



「肺の音」小川恵美子（日本）

「平成17年度七尾市美術展覧会」

11月3日（木・祝）～6日（日）  
但し、最終日は午後4時まで  
【会期中無休】

◇第一・第二・第三展示室

七尾市及び中能登町で活躍し、全国規模の会展や現代美術展で入選、入賞の実績を持つ美術作家六部門（日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真）約100名の秀作を展示いたします。



昨年の展覧会の様子

入場料 無料

主催 七尾市  
共催 七尾市教育委員会  
事業委託 財団法人七尾美術館  
後援 七尾市文化協会・七尾美術作家協会  
連絡先 石川県七尾美術館  
☎（〇七六七）五三一―一五〇〇

# 「池田コレクション名品展」

11月12日(土)～12月25日(日)

## ◆第一・第二展示室

当館所蔵品の中核「池田コレクション」による  
展覧会です。

「池田コレクション」は七尾市名誉市民の池田  
文夫氏(一九〇七～八七)蒐集の美術品で、七尾  
市出身で岐阜県大垣市を拠点に経済人として活躍  
した氏が、美術に対する高い見識と深い愛着によ  
って幅広く蒐集したコレクションです。

池田文夫氏没後の昭和六十三年から当館が開館  
した平成七年にかけて、ご遺族より七尾市に対し  
て日本美術を中心とした合計一四七点が寄附され  
ました。そして本年二月、当館開館十周年を記念  
して二十三点の作品が新たに寄附され、現在「池  
田コレクション」は合計一七〇点の作品によって  
構成されています。

その内容は氏が活躍の舞台とした岐阜県美濃地  
方や、出身地である石川県ゆかりの作品などが主  
で、茶道美術品を中心とした工芸品や、近現代の  
日本画が多く含まれています。「池田コレクション」  
は当館所蔵品の中で最も重要な位置を占めて  
おり、開館以降、所蔵品展などで定期的に紹介し  
てきました。



「織部菊図折込鉢」



「織部柳文筒向附」



「絵龍桐文木瓜形平卓」 粟生屋源右衛門



「カブラ絵合鹿椀」



「木彫養老」 関野聖雲



「木彫聖観音菩薩像」  
高村光雲

本展では「池田コレクション」の中から、陶磁  
器を中心とした工芸品、浮世絵や近現代作家によ  
る日本画、近現代彫刻の三ジャンルで各作品を紹  
介します。また、開館十周年記念として寄附され、  
本年七月に初公開したコレクション新作品二十三  
点も再度展示します。

作品の価値云々を難しく論ずるよりも、とにか  
く気に入った作品を眺め、触れる事を何よりの楽  
しみとしたという池田文夫氏が、こよなく愛した  
名品の数々をご堪能ください。



「観世音図」 澤田政廣

★工芸  
岐阜県美濃地方で制作された織部・志野などの  
美濃焼、京都の楽焼や石川の九谷焼などの陶磁器  
を中心に、一部漆芸品を加えて紹介します。

★絵画  
近現代に活躍した日本画家の軸装作品を中心  
に、江戸時代に制作された肉筆浮世絵なども併せ  
て紹介します。



「猛虎図」 大橋翠石



「雪中美人図」  
宮川長春

★彫刻  
近現代作家による木彫作品などを紹介します。

### ◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	2800円	3500円	2800円
	2800円	2800円	2800円

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

## 市民ギャラリー 展覧会案内

### 能登地区高校美術展

11月18日(金)～20日(日)  
但し、初日は正午から

最終日は午後3時まで

能登地区の高校生の展覧会です。美術・写真・書道部の作品一五〇点を展示します。内的必然性に基づくこと、追求するまなざしの堆積であること、形式化しないことを指標として制作しています。

入場料 無料

主催 石川県高等学校文化連盟・石川県教育委員会  
連絡先 川崎輝 ☎(〇七六七) 五九一―一〇六八

### 彩の会&写団のと展

11月23日(水・祝)～27日(日)  
但し、最終日は午後4時まで

七尾市を中心に活動する洋画グループ彩の会十五名と写真グループ写団のと十五名の初の合同展で風景、人物など様々な角度から捉えた近作を大小合わせ約七十点展示発表いたします。

入場料 無料

主催 彩の会・写団のと  
連絡先 加地求 ☎(〇七六七) 五二一―一六一三

### 第62回北國写真展 七尾展

12月2日(金)～4日(日)

年に一回展開されるもので当地のアマカメラマンが日頃感動した瞬間を写真に表現しました。見る人に夢と希望を抱かせるものが数多くあり、是非一度鑑賞するに価すると確信するものです。

入場料 無料

主催 北國写真連盟・北國新聞社・富山新聞社  
連絡先 宮崎功 ☎(〇七六七) 五七―二八四五

## 彫刻 8 人 展

12月7日(水)～11日(日)  
但し、最終日は午後4時まで

能登にゆかりの八人が彫刻展を開催致します。大量の情報と加速化する社会の中で、時の流れに立ち止まり、手仕事で形を刻む、そんな時間を大切にしたいと思っています。

入場料 無料

主催 彫刻8人展  
連絡先 渡部浩 ☎(〇七六七) 五二一―七三八八

## アートホール催し物案内

### doiceピアノコンサート

10月23日(日) 開演 午後1時30分  
ピアノの発表会です。今年には作曲家「平吉毅州」の楽しいリズムの世界を特集します。ゲストの福島さんによる素敵な歌と三人のピアノ講師によるソロもお楽しみに、どなたでもご来場ください。

入場料 無料

主催 ピアノグループdoice  
連絡先 井藤真理 ☎(〇七六七) 五八一―三三五五

### 第7回アルブルクラシックコンサート

10月30日(日) 開演 午後2時

ピアノによるコンサートで、今回は色々な作曲家の「幻想曲」を演奏します。ショパンやモーツァルトなどなどです。休日の午後、音楽を聴いて過ごしませんか?どうぞお気軽にご来場ください。

入場料 大人 一、〇〇〇円/小学生以下 七〇〇円

主催 Arbre (アルブル)  
連絡先 谷 栄美 ☎(〇七六七) 五三一―一二四

## 第11回メロディ音楽会

11月13日(日) 開演 午後1時30分

二年に一回開かれるピアノ発表会です。お馴染みのクラシックからポップス、アニメソングまで生徒達がお気に入りの一曲を演奏します。どうぞ、お気軽にご来場ください。

入場料 無料

主催 松本由美子門下生  
連絡先 松本由美子 ☎(〇七六七) 五三一―七〇六八

### 酒谷広重・中條久美子門下生ピアノ発表会

11月27日(日) 開演 午前10時

年に一回開かれるピアノ発表会です。クラシックはもちろん、ポップスなど、幅広いジャンルの曲を、ソロ、連弾、六手連弾などで演奏します。一生懸命練習してきた生徒たちの演奏をどうぞ、お聞きください。

入場料 無料

主催 酒谷広重・中條久美子門下生  
連絡先 中條久美子 ☎(〇七六七) 二二一―四二二

### 竹本由起子門下生 第7回ピアノ発表会

12月4日(日) 開演 午後1時30分

二年に一度、日頃の練習の成果の場として行っています。小学生から一般の方まで、ソロ演奏、連弾演奏をします。みんな、この日に向け一生懸命練習しています。どうぞ温かくお聴きください。

入場料 無料

主催 竹本由起子門下生  
連絡先 竹本由起子 ☎(〇七六七) 五二一―七二七二

### 第9回ピアノ・チェロコンサート

12月11日(日) 開演 午後2時

ピアノソロ及びアンサンブルの発表会です。  
入場料 無料

主催 松本佐智子・古川かおり門下生  
連絡先 松本佐智子 ☎〇九〇—三八八五—〇〇六一

## 当館主催の催し・アートホール・

### ◇映画上映会◇【入場無料】

・11月9日(土)午後2時  
「シリーズ いしかわの文化財」工芸・工芸技術編、  
《文化財・今に伝わる技術》(21分)

## 第6回 石川県七尾美術館 「友の会鑑賞の旅」のご案内

### 参加者大募集！

今回は、平成十七年二月に合併し『白山市』となった鶴来、松任方面の博物館等施設を見学します。少し肌寒い季節ではありますが、落ち葉が散り敷かれる参道を歩くのも、なかなか素敵だと思いませんか？各施設での専門の方々による解説も楽しみです。昼食は白山名物の「そば」を予定しています。皆様からのお申込みをお待ちしております！

◆日程 十一月二十日(日)

### ◆見学予定地

石川県ふれあい昆虫館・白山比咩神社宝物館  
白山市立松任中川一政記念美術館 ほか

◆参加費 三、〇〇〇円【昼食代・各入館料等】

(友の会会員以外の方は四、〇〇〇円)  
◆募集定員 先着二十五名(対象は原則として成人)  
◆お申し込み方法

参加ご希望の方は、十月五日(水)以降に参加費を添えて、当館受付までお越し下さい。  
(電話でのご予約はできません)

## 「美術館に行こう！」

ディックブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方

### ☆開催報告☆

当館では、去る七月二十九日から九月二十五日まで、うさこちゃんことミッフィー生誕五十周年を記念して、生みの親でグラフィック・デザイナーでもあるディック・ブルーナの作品を展示、ブルーナが影響を受けたモダン・アート作品も、絵本『ミッフィーのたのしいびじゅつかん』のストーリーに沿って紹介しました。

《見てみよう》《考えてみよう》《作ってみよう》の三部構成による体験型の展覧会で、ブルーナが絵本の色を決めていく手法を体験したり、ぬりえを楽しんだり、ワークシヨップは連日賑わいました。子どもたちが中心と思いきや、大人の方が真剣になって取り組む姿が目立ちました。実は、お父さんお母さんの方が「はまった」という家族も多かったのでは？

また、ティールームのキッズ限定「ミッフィーセット」が人気を呼び、臨時郵便局では書中見舞いを書いて、ミッフィー消印スタンプを捺してもらおう企画なども楽しめました。さらに、のと鉄道では会期中に本展記念の絵柄入り特別割引きっぷを発売されるなど、盛り上げていただきました。その他にも、絵本やビデオコーナー、かわいいグッズ販売などもあり、来館された方々は七尾美術館を満喫していただけたのではないのでしょうか。本展開催にあたり、全面的にご協力いただきました(株)ディック・ブルーナ・ジャパン、各所蔵者の方々、また、無休の五十九日間を交替で監視にあたって下さいましたボランティアの方々に対し、この場を借りてお礼申し上げます。



### 等伯コーナー

国宝・松林図屏風 長谷川等伯展 特別講演会報告

## 「松林図屏風の魅力」

講師 松原茂氏(東京国立博物館上席研究員)

「松林図屏風」は、東京国立博物館の所蔵品の中でも特に人気の高い作品です。何故こんなに松林図がモテるのだろうか。今日は、そういうことを考えながら、「松林図」が日本の絵画史の中でどのようにして生まれてきたのか、考えてみたいと思います。等伯は、天文八年(一五三九年)ここ七尾に生まれ、二十代には絵仏師として能登地方で活躍し、三十代くらいで京都に出て都でも活躍するようになります。たとえば、三十四歳の時に本法寺の「日堯上人像」を描いております。その年以前に京都に定住していたかどうかは不明ですが、ある時期、能登と京都を往復していたのではないかと思います。だんだん京都、或いは堺へも進出して、千利休などとも親交があったことが知られます。当時の京都は、狩野派の天下で、信長・秀吉に可愛がられた狩野永徳の時代であったといえます。そういった中で、能登から出ていった等伯が色々な方策、或いは人脈を使って自分を売り込んでいったのではないかと考えられます。



当時、仏画に画家が署名をしたり、ハンコを捺したりするというのは、非常に珍しい事でした。等伯は前名の「信春(のぶはる)」、或いは「しんしゅん」と呼ぶ人もいますけれども、その時代から作品に署名したりハンコを捺したりしてました。そのハンコを見ますと、何やら自己をアピールする意志が感じられます。それをまとめたのが、一枚目のプリント「等伯の志向と印章の変遷」です。この最初の印は袋形印といわれているもので

す。まずこの「春」という字を見てみます。春という字の篆書は、一番上にある小篆という、中国の晋時代に定められた字体が普通です。袋形印の「春」は形が違います。下に印章というハンコに使う篆書の六つの形が書いてありますが、この中にもピッタリする形はありません。現在残っている墨蹟に捺してあるハンコにも、この形は無いんです。ところが、雪舟の弟子の等春のハンコの「春」という字とピッタリ同じなんです。これは、等伯が等春の「春（しゅん）」の字体を自分のハンコに取り入れたというふうに考えていいと思います。古くは、等春に等伯が直接学んで、この「春」という字をもらったという説もありましたが、現代ではむしろお父さんかお爺さんが等春に学んだのではないかといわれています。等伯は等春の画系を引いているということをアピールするために、この字を取り入れたのではないかと考えます。

もう一つ、信春の「信」の字ですけれども、（ホワイトボードに書く）普通の篆書だとこ（口の上部の横線）がなくちゃいけないんですね。でも信春印には全くこの線が無いんです。また、この左側の上下に二つ、狩野元信のハンコがあります。元信の「信」という字を見ますと、この線がないというところが一致します。しかし、この一番下にある元信の印には横線の痕跡が残っています。横線のない元信印は弟子らしき作品に多いのです。元はちゃんとあったのが、欠けていつてわずかに残り、初めから無かったように見えたので、こういうふうになってしまったのだと思います。しかし、信春はこういうハンコが捺してあるものを元信の作品だと考えた。室町時代の寺院の障壁画や將軍の屋敷などの御用をしていた、その元信の名前も自分を取り込むんだという意識を持って、この文字を使ったのではないかと思うんです。つまり、信春の「信」は元信の「信（のぶ）」、「春」は等春の「春（しゅん）」という事になりま

す。ですから、等春を取ると「しんしゅん」と読むべきだし、元信を取ると「のぶはる」と読むべきだという説が出てきますが、ここでは断定は下しません。

それからもう一つ、これは中国の銅器の鼎の形の中に、「信春」という字を入れてあります。元信の印も同じような形をしておりませんが、本当は鼎は三本足なのに、元信のハンコは二本にしかならないので、こちらは壺印といっていますけれども、鼎の変形だと考えていいと思います。この鼎印というのは、室町から江戸初期にかけて狩野派が家の印として代々踏襲するんですね。ですから、このハンコが捺されている時期というのは、信春が狩野派にすぐ接近した時期ではないかなと思います。これも、都で自分が狩野派の正統を引き継いでいるという自負を示すために、非常に短い期間ですが作ったのではないかと思っています。それで大分力をつけてきて、狩野永徳一派が宮中の障壁画を制作するときに割り込もうと画策したということが、当時の記録から分かっています。それを永徳とそ一派が阻止した。そういうこともあって、もう狩野派には見切りをつけ、元信よりもさらに有名だった雪舟の直系を名乗ろうと、「自雪舟五代」を言いはじめたんですね。これ以前に等伯を名乗っていました。雪舟から数えて自分分は五代目の弟子だということですが、ハンコも「等楊」印（雪舟等楊）と「等伯」印がすごく似ていることがお分かりだと思っています。「等伯」印も「等楊」印も、真中の下の方にすごく空間があります。これは明らかに雪舟の「等楊」印を意識して等伯が作ったハンコだと思います。

ところで、字のところが白いハンコは、白文印といわれています。「等伯」印は多分、白文印が先だといわれていますが、それは雪舟の白文印を意識して作ったんだと思います。現在、一番多い「等伯」印は朱文印ですが、この朱文の「等伯」印もやっぱり朱文の「等楊」印を意識していると思うわけ

です。朱文の「等伯」印は三種類ありまして、「松林図」に捺されている印は、他には例がないんです。これを見ると、「等伯」の伯という字は上の点がありませんよね。字としても間違っていないですが、「松林図」の印は本人の印ではなくて、後の人が作って捺したと考えられています。

昨日、山の寺を案内してもらって長壽寺で「涅槃図」を拝見し、右の下の方のハンコを撮影させてもらいました。つくづく見てみたら、（ホワイトボードに書く）こういうふうに見えるんです。これは「無」という字なんです。これは楷書に近いから分かりやすく、「分」ですね。今日、それを館長と学芸員さんに話しても盛り上がりませんでした。どうということかといいますと、長谷川等伯が絵について色々語ったことを、本法寺の日通上人が書きとめた『等伯画説』（本法寺蔵）というものがあります。その中に、等伯の画系を示した図があるんですが、雪舟の弟子が何人かいる中に等春がいるわけです。この下に、無文、宗清、等伯の三人が並列で書いてあります。しかも、無文の「文」に「ぶん」という読み仮名が書いてあります。「むもん」と読むのではなく、「むぶん」と読むのだということです。そうすると、当時は音通で、特にハンコには違う字を使ったりしますので、この「無分」でも不思議ではない。しかも、長壽寺は長谷川家の菩提寺で、宗清は等伯のお父さんですから、そこにある「無分」という人は、等伯にとってお爺さんである可能性が出てきます。そうすると、先程「自雪舟五代」を称するといいましたが、雪舟から一代二代、この系図の書き方だと三人共三代のように見えますが、これがお爺さん、お父さん、子どもの関係であるならば、一代、二代、三代、四代、五代ということ、ピッタリくるんですね。これですごくはつきりしたんじゃないかということ、盛り上がりつつあったというわけなんです。非常にホットな情報を御披露いたしました。



# これからの展覧会予定



## ◆第1 展示室

### 「春の名品展（前期）」～人物画の魅力～

平成18年1月6日(金)～2月19日(日)

当館所蔵品から人物をモチーフとした作品を展示します。人々は最も身近で、最も魅力的な存在として人物を描いてきました。描かれるのは街を行き交う人々や、仲間に家族、自画像と様々であるのと同じように、描く対象を通して作家が表現するものも様々です。



「老匠」八野田 博

人物画の世界をお楽しみください。

### 「春の名品展（後期）」～茶道美術品を中心に～

平成18年2月25日(土)～4月16日(日)

当館主要所蔵品である「池田コレクション」は主に茶道美術品によって構成されています。それらには本コレクションを蒐集した池田文夫氏ゆかりの岐阜県美濃地方に因んだ作品を中心に、様々なジャンルの作品が含まれ、幅広さを感じさせる内容となっています。本展では「池田コレクション」から茶道美術品を紹介します。



「黒楽茶碗 銘菊露」楽 長入

## ◆第2 展示室

### 「彫刻家・田中太郎展」

《前期》平成18年1月6日(金)～2月19日(日)

《後期》平成18年2月25日(土)～4月16日(日)

田中太郎は平櫛田中に師事し院展などを舞台に活躍、法隆寺金堂雲形肘木などの修復にも携わった七尾市出身の彫刻家です。平成4年、ご遺族より117点のご寄附を受け、去年新たに院展初入選作品など5点をご寄附いただきました。本展では新所蔵作品と大観賞、白寿賞受賞作品など約30点を展示します。

具象から抽象作品まで、TAROU WORLDをお楽しみください。

(なお、会期中の前期後期で一部展示替えを行います)



「烏」

## アートホール・市民ギャラリーの追加使用申込について

講演会や各種発表会、個展、グループ展などにご利用いただくため、毎年1月に貸室を募集しておりますが、今年度(平成18年3月まで)まだ、利用できる期間があります。特にアートホールは240席(固定+可動)でマイクなしでも声が届き、観客が出演者を身近に感じることができます。午後10時まで貸室できます。市民ギャラリーは12月中旬以降余裕があります。お気軽にお問合せください。



### 交通案内

飛行機……能登空港より能登有料道路利用約45分

車………金沢より能登有料道路利用約1時間20分

タクシー……JR七尾駅より約5分

徒歩………JR七尾駅より約20分

市内循環バス……JR七尾駅より西回りに(まりん号) 乗車約6分

ななおコミュニティバス……JR七尾駅より西コースに(ぐるっと7セブン) 乗車約10分

### 休館日のお知らせ

(10月～12月)

- ◆10月 31
- ◆11月 1,2,7～11,14,21,24,28
- ◆12月 5,12,19
- 年末年始 12/26～1/5

◎次号・第44号(冬号)は1月6日発行予定です。